

「おくる言葉」について

2月13日のシンポジウム当日では、「おくる言葉」の作成は納得いかない状態で終わってしまいました。そこで勝手ながら、一度持ち帰って納得いくものを作り上げたいとお願いしました。当日参加していただいたみなさんからは、そんな勝手な私たちのお願いにも、あたたかいメッセージを送っていただき、大きな励みになりました。本当にありがとうございます。

1ヶ月以上も経ってしまいましたが、納得のいく「おくる言葉」が完成しました。当初は“シンポジウム”という開かれた場所で完成させるつもりでしたので、その作成の過程を含めてみなさんに見ていただき、「おくる言葉」をお渡しできる予定でした。しかし今回“シンポジウム”とは異なる場で作成したため、どのような過程を経て「おくる言葉」をつくったのかを説明しておきたいと思います。

まずシンポジウム当日の「おくる言葉」企画の振り返りを行いました。ここで以下のような問題点を挙げ、改めてこのおくる言葉の意義、目的を確認しました。

問題1：短い時間で焦ってつくったため、文章的に意味の通じにくいところがあった

一文の長さを調整するなど読みやすく、訂正しました。

問題2：言葉にとらわれすぎて、本来一番伝えたかった私たちの想いや価値を出し切れなかった

たとえば、「学ぶこと」と「知ること」は言語的には意味の違う言葉ですが、伝えたかった想いは共通して含まれている「相手を尊重しようとする事」でした。当日は「学ぶこと」と「知ること」の違いのような言語的などころにこだわりすぎて、時間が必要以上に経ってしまいました。

問題3：「教育福祉学類」について説明するのか、「教育福祉」について説明するのかわからない

当日、「私たちが考える教育福祉」のなかに、「教育福祉」そのものについて触れたものと、「教育福祉学類」の様子を説明したものが混在しており、これが参加者を混乱させる原因となってしまいました。

私たちは「私たちが考える教育福祉」について「おくる言葉」で確認し文章としてまとめたいと考えていました。ただ私たちは「教育福祉学類」で学んできたので、私たちが考える「教育福祉」の中には、「教育福祉学類」の授業や風土などから学んだことが含まれています。そのため、両者を完全に切り離して考えることは難しいのが実情です。

問題4：だれに向けての「おくる言葉」なのかわからない

当日長岡から「シンポジウムに参加していただいた人に向けて」と説明しました。しかし、改めて本来の意義を見つめなおしたところ、「おくる言葉」の対象はシンポジウムに参加した人だけではないことが確認されました。私たちは「おくる言葉」を、教育福祉学類の学生、先生、これから未来を考える高校生、実際に社会で福祉や教育に携わっている方はもちろん、「教育福祉」に関心を持っていただけるすべての方に向けたものとしたいと考えています。また、自分自身と向き合い、自分自身の「教育福祉」を追求していくという意味では、この「おくる言葉」は私たち自身に向けてのものでもあります。

これらのことを踏まえ、ディスカッションで確認した内容を文章化し、「私たちが考える『教育福祉』」について、改めて考えました。

遅くなりましたが、これらのことをふまえて「おくる言葉」を読んでもらいたいです。

教福伝え隊一同

教育×福祉×自分
～この学び、学生の本気で伝えたい～

おくる言葉

2012年4月、教育福祉学類が誕生しました。教育福祉学類の学生である私達は、教育／福祉／保育といった分野の垣根を越えて、この4年間、たくさんのことを学んできました。そして今年、教育福祉学類が誕生して4年が経ち、完成年度を迎えるにあたって「教育福祉学類で4年間私たちはどんなことを学んだのか」「そもそも『教育福祉』とはどういうものなのか」について改めて考え、発信する場として、シンポジウムを開きました。

今回のシンポジウムでは、教育福祉学類で学んできた学生を代表して5人の学生が自らの学びを自らの言葉で発信し、人を多様な存在であると捉え、そのような人と関わっていくために、幅広い人々との連携をもとにしながら、ともに考え、尊重し合い、学び合うことが大切であることを確認しました。

さらに、ディスカッションでは、相手の主体性を大事にし、自分自身とも向き合いながら、多様な他者であるひとりひとりの個別のニーズに対して、その人自身とそのまわりの環境への柔軟な関わりによって、その人自身の可能性を広げることができるのではないかと考えました。そのような関わりをするためには、他者を完全に理解することは難しいけれども、だからこそ、知ろうとすること、寄り添おうとすることが大切だということを確認しました。

私たちは、教育福祉学類での学びの中で、このような、人と関わる上で大事であると考えられる価値観を土台として築いてきました。それは教育だけを学んでも、福祉だけを学んでも築いていけなかった価値観だと思います。教育福祉として学んだからこそ、私たち自身の中に分野や固有の視点を超えた価値観を築くことができました。

以上のことを踏まえて、

私たちが考える「教育福祉」とは、以下の3つです。

- ・他者と共に考え、学び合うことを大切にすること
- ・自分も相手も尊重されるべき一人の人として、向き合っていくこと
- ・ありのままの自分を出せる場をつくることであり、それを受け入れてくれる場をつくること

このことを私たちは卒業後にも忘れず、心がけていこうと思います。

以上のことを私たちが考える「おくる言葉」とします。

2016年3月16日（水）

長岡咲恵 泉谷駿 太田祥貴 鈴木智也 高木美穂 難波真理 畠山尚之 藤岡佳
(書記 中村将大 平見佳代)